

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社 ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー		
所在地	土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	平成28年7月26日	評価結果市町村受理日	平成28年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=trus&amp;ligyosvoCd=2171800218-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=trus&amp;ligyosvoCd=2171800218-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年8月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームファミリーという名前どおりに、家庭的な雰囲気の提供を目指しています。利用者様の意思を尊重することを基本に置いて、それぞれの利用者様が安心して生活を送っていただけるように努めています。健康面では、協力医院からの往診や日々の血圧と検温等によって健康に過ごしていただけるようにしています。開所して15年間の認知症介護に対する知識を日々の利用者様の生活に生かします。笑顔・ゆっくり・傾聴・共感・情報公開を基本理念にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家を利用して作られた事業所は、職員のアイデアを活かしながら、行き届いた清掃と防臭対策等を工夫し、快適な環境作りに取り組んでいる。新人職員の育成にも力を注ぎ、研修の受講を支援し、学ぶ機会を与えている。また、責任ある業務への配置により職員の意欲が向上し、力を発揮しながら、少しずつ業務の改善にもつなげている。気持ちの良い季節には、園芸の得意な利用者が先生となって、他の利用者と共にプランター園芸の作業をしたり、利用者の希望を聴き、戸外で五平餅焼きを楽しむ等、利用者一人ひとりが持てる力を発揮して、明るく楽しい暮らしができるよう支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の業務の中で意識するように心がけています。適時、具体的に管理者やケアマネより理念をスタッフに伝えるようにしています。	理念は、ゆっくり、傾聴、共感等、すべてのケアの基本となる明確な文言で、玄関に掲示している。日々の業務や会議でも確認し、提案ノートや申し送りノートで共有しながら、家庭的で、穏やかな暮らしができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺は、公園と工場が立ち並んでいる地区なので、日常的な地域とのかかわりは薄いですが、地域からの職場体験などは受け入れています。	代表が交代したことから、自治会脱退となり、地域との交流が希薄となっているが、近隣の工場とは、挨拶の出来る付き合いを継続し、地域の運動会の誘いには、数名の利用者と職員が参加している。ボランティアや中学生の職場体験受け入れも行なっている。	地域密着の意義を再確認し、事業所が孤立することがないように、今まで築いてきた地域との交流の再構築が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回の運営推進会議を開催して、地域の民生委員さんをはじめとして、認知症介護に関する啓もう活動をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的なホームの日常を報告して、助言をいただき、それをスタッフ全員で共有できるように、記事録については、ユニットごとに回覧しています。	運営推進会議は家族の希望を受け入れ、現在は、夜間に実施しているが、家族、行政、民生委員の参加がある。職員の名前と写真を通信に載せてほしいとの意見があり具体化している。利用者の感染症の件に関する質疑があり、家族が安心できるように、経過や現状を分かりやすく説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の制度上の事柄を、市の介護保険課に問い合わせ助言をいただいたり、空き部屋が出たときは、包括支援センター様に紹介を依頼したりしています。	市の担当者とは、電話で常に相談したり、窓口に向いたりして、意見交換ができる関係が築けている。後見制度や、経済的支援が必要な人の受け入れ等についても、直面している問題を率直に伝えて、アドバイスを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々介護関係のニュースや通達をチェックして、虐待等の事件があったときは、虐待防止の資料を添えて、全スタッフに回覧する体制をとっています。また、会議や申し送りノートを活用して、利用者様に対するサービスのチェックも行っています。	職員は、身体拘束をテーマにした外部研修参加者からの伝達を受け、拘束について学び、理解している。また、無意識に出る言葉や対応等についても、利用者の目に入らない場所で、職員同士で注意し合っている。虐待関係のニュース報道があった時は、自らのケアを確認して、拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、何が虐待に当たるのかを資料で確認することを行っています。また、常に管理者の重点チェック項目として意識しています。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用されているね利用者様がいるので、日々後見人さんとの連絡で、実地に学ぶ機会となっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけ時間をかけて説明に心がけています。また、利用者様やご家族が話しやすい雰囲気になるように、世間話を交えながらの説明を進めて、疑問点を言いやすいように工夫しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の設置と、ホームに苦情受付箱を設置しています。また、介護相談員の方の訪問を月一回受け入れています。運営推進会議の場も、これに対応しています。	家族の面会時や電話での近況報告の際、また、家族同行の受診時等に、家族の思いを聴くよう努めている。運営推進会議に参加した家族から、感染症についてや、介護相談員の参加、職員の写真を通信に掲載して欲しい等、積極的な意見や要望があり、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も現場に入り、日常的に職員の話を書くようにしています。また、提案ノートを設定して、意見の表明の場としています。その他には、会議でテーマに沿っての提案の集約を行っています。	職員の意見や要望は、日常業務の中で、直接聴いている。「提案ノート」は、職員の意見から生まれ、これからする事や、したい事を記入し、「申し送りノート」には決まった事を記入している。歩行訓練の統一について提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厚労省の評価シートを使い、自己評価と管理者評価を突き合わせて、勤務状況の把握とステップアップに努めています。また、慰労会の設定や勤務状況が収入の増につながるように設定して、やりがいにつなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価シートの活用と、適時のケアマネからの認知症介護についての研修資料の提供を行っています。また、ホームに来る研修情報も提供し、重要度によって、法人負担の研修派遣も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会員になり、他のグループホームとの交流を図っています。兄弟会社の有料老人ホーム管理者と日常的に協力関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークなどの時は、生活されている場に出向く事を基本にして、話しやすい雰囲気の中で気持ちを表現していただけるように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が身構えないような雰囲気を出して、些細なことでも話していただけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の生活スタイルをお聞きする中で、問題点を探り、適正な生活空間はどのようなものかをイメージして、ホームでの生活を作ることを基本としています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様と一緒に生活しているという事を意識して、日常生活の家事を分担していただく事に感謝する姿勢を持ちます。また、年長者として敬う気持ちを持ちます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間を設定はしていますが、自由にホームに来ていただいたり、内科以外の通院をご家族と連携して行ったりしています。利用者様の変化を逐次報告して、助言をいただいたりしています。行事の参加もお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方やご友人様が面会に来られた時は、個室でお話できるように設定していますが、来られる方は少ないです。知人様に年賀状等の便りを出される事も可能です。	馴染みの人が高齢化し、面会が少なくなっているが、面会時には、お茶を出し、帰りには声かけをする等、関係が続くよう配慮している。利用者は、月に1度の介護相談員とも顔馴染みになっており、気楽に話を聴いてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団で行える余暇援助を設定して、利用者様間での関係を築けるように支援しています。また、食事の席なども、気の合う人を考慮して設定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、次の生活の場でスムーズに馴染めるように情報提供を行ったり、求めに応じて各種の相談に乗っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの職員からの日常的な会話から、ご本人さんの希望を聞き出し、ケアマネに情報提供してケアプランに生かしています。また、ケアマネが利用者様と直接お話を聞く機会も設定しています。	職員は、常に、理念である傾聴の姿勢で利用者に寄り添い、思いや希望を汲み取るよう努めている。介護相談員の気付きや、家族の報告等からも情報を得、思いや意向の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴をお聞きするとともに、入居後もご家族様とスタッフがお会いする機会にも、適時お話を聞きます。また、ご利用者様自身に、思い出話をしていただけるように設定しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートや介護記録を通して、利用者様の一日を把握するとともに、変化についても注意を払っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフの状況把握表と課題提供表を基にして介護計画見直し表を作成し、計画作成担当者が介護計画として起こし、ご家族に提示しています。	介護計画は、家族の意向や利用者の思いを基に、職員の意見や介護記録、医師の情報を反映して、ケアマネジャーが作成や見直しを行なっている。変化がなければ、6か月毎に計画を立案し、家族に提示して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の個別記録、夜間の個別記録、トイレの回数や血圧、検温など種々の記録を作成して、日々多方面からの視点を、職員間で共有しています。それらを基にして、上記の各表を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活施設として、利用者様の生活を作る視点を大切にしています。また、利用者様の状態像の変化に応じて、次の生活拠点の相談援助も致します。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の要望によって、指定のお店での買い物依頼にもお応えしています。地域で活動しているボランティアさん受け入れによって、楽しみの提供にも努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様と協力医院との契約に基づいて、月二回の往診時に、スムーズに診察が受けられるように準備する体制を確保しています。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望により、全員が、認知症専門医である協力医を受診している。月2回の往診は、1回目が個人往診、2回目が集団往診となっており、毎回の往診記録は家族に送付している。他科への受診は、家族同行とし、受診結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約して、定期的に利用者様の健康チェックをしていただき、協力医院と連携していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、馴染みのスタッフが病院を訪問して、状況把握に努めています。また、適時、病院の相談員さんや看護師さん、主治医さんと連携して対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアとしては、位置づけはありませんが、結果的には終末期ケアとなったケースはあります。今後の課題として位置づけられる項目です。	事業所は、看取りを行わないことを、契約時に説明し、同意を得ている。重度化し、医療的な治療が必要になった時には、他の施設を紹介し、移行への支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームに、病気や事故、地震、火災等の緊急事態に即した対応マニュアルを設置しています。また、火災・避難訓練も定期的を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土岐市発行の災害マップを各ユニットに置いています。また、夜間の緊急応援体制も作っています。	防災訓練は、消防署から消火器を借り、防火管理者を中心に役割を決めて、昼夜を想定した訓練を実施している。年1回、業者による防災機器類の点検を受け、説明を受けている。水と2日分の食料の備蓄がある。	地域の防災訓練への参加、連絡網の整備等が昨年度からの継続課題となっている。具体化が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の重度の方も年長者として敬います。入浴は、個別入浴を設定しています。失敗体験につながらないように注意して対応します。	接遇研修を全職員が受講し、学んだことを活かしながら、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないケアを実践している。慣れ合いからくる言葉遣いや態度があった場合は、その都度、職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が職員を信頼していただき、様々な生活場面で、思いを伝えていただけるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ちょっと待って」という言葉をできるだけ少なくなるようにしています。また、言葉で表現できない方も様子に注意して居室で休んでいただいたりの対応をして、強制的に日課への参加はしません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に対応した服装や、女性の方には好みのヘアピンを使っていただいたり、細かい部分での対応も視野に入れていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の咀嚼の力を配慮して、刻み食などで食べやすさも提供しています。メニューも偏りのないよう配慮しています。高齢者の方が好むメニューの提供を心掛けています。	メニューは、家庭的であり、個々の状態に合わせて提供している。準備や片付けも、出来る人がテーブル拭きや食器洗いをこなしている。食事中はテレビを消し、落ち着いた雰囲気の中、全員が完食している。職員は、さり気なく利用者を見守りながら、持参したお弁当を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量とその日の水分摂取量のチェックを行い、摂取力の落ちているときは、協力医院と連携して、補助食品で栄養補給も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアと義歯装着の方には、ポリドント等の消毒を行っています。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ記録を基にして、排便排尿感覚の弱い人は、トイレへの定期誘導を行っています。夜間も状況に応じてトイレ誘導を実施することもあります。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行なっている。少しずつ失敗が減り、紙パンツから、布パンツに変わった人もある。時間帯により、紙パンツ、パッドの使い分けをし、排泄用品の費用軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、食事のメニューに果物等のメニューを設定したり、繊維質の多い食物をメニューを設定したりしています。また、協力医院と連携して対応します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日設定はしていますが、状況や希望に応じて、入浴は柔軟に対応しています。	入浴回数は、週3回を基本としているが、個々の希望に応じながら、職員2名で介助を行なっている。異性の入浴介助に抵抗がある利用者には、シフトの組み換えや入浴日の変更等を行ない、職員との会話を楽しみながら入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況や年齢を考慮して、日中も居室で横になれるように対応しています。各室にクーラーを設置して、温度計を見ながら快適に過ごせるように空調のコントロールをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬情報と往診結果に目を通して、適正に利用者様が服薬できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	競技性のある余暇の提供や、得意分野の活動を提供しています。また、日光浴や夕涼み、季節の行事などの提供で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての外出を提供していますが、現状では、回数は減る傾向です。	中庭での外気浴や夕方の散歩を日課とし、ドライブ、買物等は、一人ひとりの希望に応じて支援をしている。法事、墓参り、年末の外泊等の外出は、家族の協力を得ている。季節の行事として、初詣に出かけている。	



岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ホームが立て替える形式をとっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて、ご家族様からの電話に出たいいただいたりすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は昭和レトロな雰囲気のあるものなので、馴染みの空間になりやすい利点を生かして、生活感を演出するようにしています。また、季節感ではテーブルに花壇に咲いた季節の花を飾ったりしています。	共有空間は温湿度計を使用し、適切な空調管理を行なっている。また、自然換気をしながら、防臭剤、芳香剤を活用し、清掃を心がけ、快適な空間作りに取り組んでいる。テーブルの上でメダカを飼育したり、道端や庭先の花を飾り、生活感ある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの席などで、気の合う同志でおしゃべりできるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の意向を考慮して居室づくりを行っています。	居室は清掃が行き届き、持ち込んだ家具やテレビ、時計、家族の写真等、利用者の意向に合わせて配置している。安全のため、ベッドの足元には物を置かないよう整理整頓し、安らげる居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉にはお名前を掲示し、トイレもわかりやすく表示しています。廊下には手すりを設置しています。		